



森山文切之ニ句集

こねくしよん

はじめに

34歳で川柳を始めました。何事も形から、論理的に入るタイプです。川柳を始めると決めた時いろいろと調べたところ、川柳は「客観の文芸」で、上達には多読多作が必要であるとわかりました（と当時は思った）。

「客観＝主観以外の全部又は一部」であるので、川柳が客観の文芸であるならば、まず主観から固めなければならぬと考えました。多読と多作、どちらが主観を固めるのに必要かといえば、多作でしょう。一体どのくらい作れば多作なのかさっぱりわかりません。適当に一万句と決めました。年間千句で十年。「よし、最初の十年で多作により主観を固め、次の十年で多読により客観のなんたるかを理解し、二十年以降が勝負だ。二十年

経ってもまだ54歳だから、それから勝負しても川柳界では十分若いだろう（父が40年近く川柳をしていたので漠然とではあるが川柳界のイメージは当時からあった）。」

当時立てたこの目標は、川柳を始めて数年経った今も生きています。「客観のなんたるかを理解し」の部分は一生かけても無理な気がしています。が、とにかく一万句作ってから次の目標を考えたいと思います。

次のページにこれまでの作句数を記載しますが、一万句にはまだまだです。前述のとおり主観を固めることを意識して作句したものが多いです。したがって、独りよがりと感じられる句があるかもしれません。ご容赦ください。

平成29年5月10日

森山文切

森山文切

沖縄県川柳協会所属、川柳塔社同人

川柳塔WEBサイト管理人

川柳塔おきなわ準備室室長

略歴

昭和54年 鳥取県生まれ。

平成11年 大学進学を機に沖縄県

に移り住む。

平成26年 川柳を始める。

平成27年 川柳塔社同人

川柳塔おきなわ準備室

β版の公開を開始

平成28年 川柳塔WEBサイトの

管理人になる。

本句集データ

作句期間 平成26年5月から

平成29年4月

期間中作句数 4510句

期間中投句数 2862句

期間中発表句数 856句

(選のあるなし問わず、何らかの形で世に出た句数)

本句集掲載句数

50句

平成
26
年

伝線のままの働きすぎた足

内側の方が汚れているガラス

本能に従い黙る縫いぐるみ

コーナーに立って遠心力を待つ

吊り革を眺め老いさらばえて行く

売人の舌が並んでいる市場

流れ着くだろう助けるまでもない

孤立している指舐めたい衝動

私以外が順に消えゆくゲーム

沖縄の海を抱いたままでいる

平成
27
年

寝過ごしたようで空が新しい

暗い匂ばかりが浮かんでくるベッド

豆ひとつには広すぎるわたしの手

塩水の理由を知ってからりんご

垢という答えが枯れた体から

鰓呼吸できる男になってやる

扁平足だけで編成する部隊

米軍のフェンス内にも咲くデイゴ

どの花を舐めても同じ味がする

目を覆うための両手に成り下がる

わたくしの器に合ってきた歩幅

アラジンのランプを作る町工場

カーテンが揺れて養育費の話

置いた手が攻める形になっている

一斉に開く告別式の傘

平成
28
年

印影がずれてわたしに似てしまう

ツナ缶の中は幾何学的模様

死後の世界はカビキラーのにおい

胸元のタトウーを舐められる女

圧力をかけたら腐り出すレタス

罅割れた甕だが翼ならあるぞ

ヨウコのことので風船を割るヨウコ

だれかがわらった シヤボン玉がわれた

せんよりもひだりはぼくがうごかせる

花がない方が自然である花瓶

弟が実るサキシマスオウノキ

わたあめの中でわたしだけのまつり

プルタブを引いたら見えるのが心

真下から洗濯物を見続ける

ドレミファソラシドこどもの志望校

平成
29
年

葬式へ向かう自動車道に霧

爽やかか問いただされているミント

たんぽぽが最前線に咲いている

粒状の愛しか与えられません

まるかいてちよんで終わっている日記

生真面目で裏返されている時計

はんぺんかたまごかすじか退職か

じいさんが解き放たれた色になる

明太子パスタもさくら色の春

たくさんの人と握手をした右手

あとがき

親のコネに頼るのが嫌いでした。父も母も顔が広く、田舎であることもあり、小さい頃からどこへ行っても親の影響を感じました。沖繩の大学に進学することにしたのは、親も親戚もない土地で勝負してみたいという思いもありました。沖繩ではコネを最大限頼りました。沖繩でのコネは、親の力を借りず私自身が獲得したものだからです。

このような気質のため、川柳を始めることには少し抵抗がありました。川柳をすることは、父を頼ることそのものだからです。私が川柳を始めたのは、私自身が父親となったことにより父への感情に変化が生じ、川柳への思いが私の気質を上回ったためです。

川柳を始めると決めてからは、川柳塔社新家完司理事長をはじめ、父の人脈に頼りっぱなしですが、もうそのことに抵抗はありません。一度頼ると決めたら、最後までそのつながりを大切に最大限頼るのが、コネに頼る者の責任であるというのが私のポリシーです。

私の川柳活動はWEBが中心です。私が川柳を始めた当時から色々なWEBサイトがありました。文芸川柳のWEBサイトを取りまとめたポータルサイトはありませんでした。思いついたらまず行動する性格でWEBサイトの運営にも多少の知識はあったので自分でそれらしいものを作りました。このころ琉球新報で川柳欄の選者をされている大田かつらさんと出会い、かつらさん経由で琉球新報社から許可をいただき川柳欄のWEB掲載を開始し、沖縄での川柳活動も広がり始めました。

それから数ヶ月後、川柳塔社でWEBサイトの更新ができる人を探していると完司さんから連絡があり、川柳塔社WEBサイトも管理することになりました。川柳塔社、川柳塔おきなわ準備室の両方でWEB句会を実施し、多くの方々に投句者として、選者として、ご協力いただきました。WEBでの川柳活動は、私の想像を超えて広がっていききました。

父が盛桜であり川柳塔を中心に広く深い川柳人脈があったこと、私が沖繩で暮らしていてサイトを開設できる程度には知識があったこと、私が川柳を始めて間もなく、川柳塔社WEBサイトの管理人を交代する必要があったことなど、さまざまな事実とタイミングが重なって今に至ります。今後私と川柳のつながりがどう広がるか、私自身楽しみです。

森山文切

森山文切ミニ句集 こねくしょん

発行人 森山文切

編集所 川柳塔社 WEB サイト

<http://senryutou.net>